

児玉 康比古 議員



一問一答方式

- ① 城泊（キャッスルスティ）について
- ② 有害鳥獣対策
- ③ 自治会の見直し

城泊（キャッスルスティ）について

問

11月に実施された大洲城での歴史体験実証実験からわかった課題、問題点は何か。また、その改善策はどうするのか。

さらに、城泊は、春と秋の比較的過ごしやすい時期に限定されている。春先でも暑かったり寒かったりすると思うが、冷暖房をどうするのか。

答

実証実験で生じた課題は、主なものとして、大洲城における夜間消灯時の照明配置の検討、分電盤

ケーブルの交換、必要経費の精査、展示計画の再検討などがあります。

照明配置については増設による対応を検討することとしており、分電盤ケーブルは交換することとしています。経費は事業者などの調整を実施しているところで、展示関係は、一部修繕も行いながら配置変えをしています。

なお、時期によっては暑さ寒さがあるうかと思いますが、事業の趣旨からも現在のところ冷暖房を使用する予定はありません。

有害鳥獣対策について

問

有害鳥獣の駆除は、猟友会の方々に頼るしか方法がないと思う。市も補助金や育成に尽力しているが、現実には会員の高齢化と会員の減少傾向にあると聞く。市としても猟友会組織維持のため、ほかに支援されていることはないのか。

答

本市としても、猟友会費やハンター保険料を補助する捕獲隊等育成事業や、狩猟免許初心者講習受講料や受験料を補助しており、引き続き支援を継続していきたいと考え

ています。

先月、農林水産省登録の農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーを招き研修会を開催したところ、猟友会の会員を初め約70名の方々に参加をいただきました。この研修会においてさまざまな知識や技術を身につけることができたが、狩猟免許を持つていない方でもわなの見回りや餌づけなど捕獲従事者の負担軽減が図れるような協力活動ができていることを学びました。こうした地域ぐるみの鳥獣害対策の必要性を強く感じたところです。

自治会の見直しについて

問

自治担当職員が文書起案や配布を行い、会計帳簿と預貯金管理まで行っている自治会と、自治会長自らが事務局長、会計担当まで決めて自治運営している自治会があり、不公平感がある。

自治担当職員を配置しての自治会運営を今後も続けていくのか、内子町や八幡浜市のように自治会で職員や公民館職員等の採用まで行う自治運営をするのかどうか、一日も早く

二者択一すべきと思う。

現状の自治会運営を継承するのであれば公平に職員の配置もすべきと思うが、再来年度からの自治会のあり方について明確な答弁をお願いする。

答

現在の自治会制度は、平成27年度の再編から5年目を迎えています。自治会の本来の姿とは、若宮地域自治会のように自主的に運営されている姿であると考えています。できることから自治会にお任せし、地域自治担当職員は側面的な支援を行っていくことが理想と考えています。

自治会、公民館、連絡所のあり方を検討する中で、現在、関係部署の職員による地域自治組織等庁内検討会において本市にふさわしい体制を調査、研究しているところで、早ければ来年度から自治会長さんや公民館長さんなどを交えて、今後のあり方の検討を進めていきたいと考えています。

その中で職員体制やスケジュールについても検討していきたいと考えています。